

「学生による授業評価」のまとめ 2024年度第1・第2クォーター刊行にあたって
2024年12月

南山大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会
委員長 服部 寛

南山大学では、1997年度より、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育の質を向上させることを目的として、「学生による授業評価」を全校で実施している。以降、設問項目の見直しなどが図られながら、2017年度におけるクォーター制の導入・名古屋キャンパスへの統合・授業評価のウェブ入力方式への変更といった大きな転換を経て、2020年度には科目選出方法が見直され、授業評価の現在の実施形態の基礎が整えられた。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響を受けたオンライン授業・ハイブリッド授業の導入に伴い、授業評価も、設問内容の変更が図られたが、2022年度には対面授業にほぼ戻ることとなり、2023年度の授業もほとんどの授業が対面で実施されるに至って、2024年度も引き続いてその路線で授業が行なわれた。

「学生による授業評価」に関する基本的な情報は、「南山大学 教育企画・研究推進課」の以下のホームページに掲載されている（2024年4月にWebページがリニューアルされたことに伴い、これまでのURLから一部変更がある）。※以下、いずれも、2024年12月1日アクセス。

- ・授業評価について <https://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jugyohyoka/>
このホームページに、以下の2つのホームページへのリンクが貼られている。
- ・「学生による授業評価」の「概要」 <https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/hyoka.html>
（「まとめ」（巻頭言）・「設問項目」「各種集計」）
- ・「学生による授業評価」の「まとめ」（自己点検・評価報告書）
<https://office.nanzan-u.ac.jp/kyoken/jugyohyoka/matome/>
（各科目のデータと各担当者による報告書はここから確認できる。）

1. 授業評価の実施方法

① 対象科目

各学期について1教員につき1科目が選択され第1・第2クォーター合わせて合計446科目が授業評価の対象となった。

② 質問項目

質問項目は以下のとおりである。設問1と2は学生の授業参加を問う項目、設問3から14は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。このほかに、3つの自由記述の質問項目を設けており、理工学部の授業については4つの追加設問項目がある。

〈「学生による授業評価」質問項目〉

- 設問 1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。
設問 2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。
設問 3：授業の開始と終了の時間は守られていましたか。
設問 4：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。
設問 5：この授業の到達目標を理解することができましたか。
設問 6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。
設問 7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。
設問 8：授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。
設問 9：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。
設問 10：私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていましたか。
設問 11：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。
設問 12：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。
設問 13：この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。
設問 14：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。回答は匿名化して処理される。学生は、教員の指示により授業時間内外に各自のスマートフォン等を使ってPORTAにログインして回答する。授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅PC等を利用して回答することが可能である。

④ 実施・集計日程

以下の日程で実施集計を行った。別途、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の分析・検討を行っている。

	第1クォーター	第2クォーター
授業評価の実施	2024年5月14日～ 2024年5月27日	2024年7月10日～ 2024年7月23日
集計作業	2024年5月28日～ 2024年5月30日	2024年7月24日～ 2024年7月28日
教員への集計結果の通知	2024年5月31日	2024年7月29日
教員からの自己点検・評価報告書提出	2024年5月31日～ 2024年8月21日	2024年7月29日～ 2024年8月21日
『学生による授業評価』のまとめの発行	2024年12月	2024年12月

2. 集計結果の概要

① 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合である。表1は、2021年度から今期までの数値をまとめたものである(表1)。

表1 回答率(2021年度第1クォーター～2024年度第2クォーター) (数値:%)

年度 人数	2021 Q1	2021 Q2	2021 Q3	2021 Q4	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4	2023 Q1	2023 Q2	2023 Q3	2023 Q4	2024 Q1	2024 Q2
全体	48.05	50.30	44.50	47.90	49.01	46.89	41.97	45.10	58.16	46.24	42.92	40.67	49.85	48.27
30名以下	62.11	70.02	51.66	58.78	69.35	65.55	57.09	59.02	73.17	59.06	57.06	58.59	70.80	67.60
31～60名	53.04	56.27	46.25	52.79	57.93	55.00	49.53	51.53	61.39	61.45	50.62	44.55	59.19	58.02
61～120名	42.26	48.70	41.78	48.63	48.36	46.71	35.40	42.60	58.23	47.50	44.76	40.73	49.29	52.06
121～240名	46.30	44.67	42.21	43.52	40.98	40.53	42.41	41.74	53.68	44.79	39.37	34.28	47.22	42.28
241名以上	45.34	48.84	46.39	42.07	47.74	42.55	34.71	40.27	55.36	41.40	38.41	34.44	43.34	44.39

今期の2024年度の第1クォーター・第2クォーターについて、各数値を確認していくと、まず、「全体」は、第1クォーターが「49.85%」、第2クォーターが「48.27%」であり、前年度の同時期と比べて、前者では落ち込み、後者では増加した。クォーターごとで、教室の規模に注目して確認していくと、今年度の第1クォーターでは、昨年度の同時期比で、残念ながら、全ての教室のサイズで低下しており、特に「241名以上」の大規模教室では、10%程度も減少している。他方、第2クォーターでは、「31～60名」・「121～240名」の授業では低下が見られるが、大規模の「241名以上」では、数値が上昇している(表1内の黄色マーク箇所)。この点につき、今年度(今期)、FD委員会では、大規模教室の回答率の低下の対策として、この第2クォーターにおいて「241名以上」となる授業の科目担当者に、FD委員から「協力のお願いのお声がけ」として、「学生による授業評価」への一層のご協力を個別に要請し、授業評価への回答時間の確保(少なくとも1回)と回答方法(アンケート実施マニュアル3頁目フローチャート内に記載)の指示の読み上げをお願いした。このようなお願いの働きかけは、おそらくFD委員会での初の試みであり、諸先生方のご協力と、それを受けての学生の回答への真摯の対応の甲斐あってか、これまで右肩下りの傾向にあった大教室での回答率が持ち直しを見せている。ご対応を頂いた第2クォーターの大規模授業の先生方にこの場を借りて御礼申し上げたい。

今回功を奏したと言えるこの個別の「お願い」の経緯から得られる示唆として、2点ほど指摘すると、1点目は、「授業時間『内』」における、授業評価アンケートの実施と〈回答方法指示〉の読み上げの効果である。授業評価アンケートは、現在、PORTAから回答できる仕組みであり、授業時間「外」でも回答可能であって、授業開始「前」や「後」、休み時間中はもちろん、ひいては自宅でも回答が可能である。そのため、貴重な授業時間を犠牲にすることなく、受講生にアンケートに答えてもあることができるのは、大きな利点ではあるが、他面で、いつでも回答できるということから、回答し忘れという事態にもつながりがちであると言える。これに対して、授業時間「内」に回答の時間を設けると、出席している学

生から回答をもらえる確実性が増し、ひいては回答率の増加につながると言える。今回の「お願い」は後者の途を採ったものであり、今回の取り組みの対象となった大規模教室だけでなく、「61～120名」・「121～240名」という中規模の授業でも、効果を上げることが期待されるだろう。しかし、指摘したい2点目は、「授業に出席する学生の数の問題」であり、いかに授業時間「内」に実施したとしても、該当の授業に出席する学生の数が少ないとなると、実際の回答者(すなわち授業時間「内」に出席している学生)の数も少なくなってしまう、という問題である。この出席者数(と回答率との関係)の問題も、今期の第2クォーターの大規模授業の担当の方から指摘を頂いた点であり、そもそもの出席者数あるいは出席率ともいべき視点が、現状の授業評価アンケートで欠けているということを今後どう考えるかという問題提起を頂いている。「出席」自体をどう考えるかについては、当委員会の所掌の範囲を超える難しい問題であるが、回答率との関連もふまえながら、何らかの形で対応することが望まれるところである。

② 報告書提出について

授業評価を行った後に、教員より自己点検・評価報告書を提出して頂いている。2024年度第1クォーター・第2クォーターでは、第1クォーターに実施の授業で1件の非提出となってしまった。引き続き、全件の期限内の提出が実現されるよう、ご理解とご協力をお願いしたい。

③ 項目3～14の評定平均値について・項目ごとの評定平均値について

表2は、「項目3～14の評定平均値」を表わしたものである。2021年度～2024年度第2クォーターまでの数値を表で表したものが表2で、グラフ化したものがグラフ1である。

表2 項目3～14の評定平均値(2021年度第1クォーター～2024年度第2クォーター)

年度 学期	2021 Q1	2021 Q2	2021 Q3	2021 Q4	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4	2023 Q1	2023 Q2	2023 Q3	2023 Q4	2024 Q1	2024 Q2
全体	4.43	4.45	4.47	4.40	4.48	4.47	4.40	4.47	4.43	4.48	4.53	4.55	4.48	4.54



2024年度の第1クォーター・第2クォーターの当該数値は、それぞれ「4.48」「4.54」であり、昨年度の同時期に比べていずれも上昇している。

表 3 は、各設問項目の数値の推移を示している。

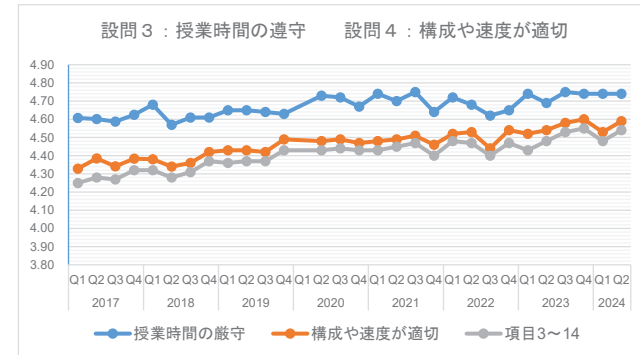
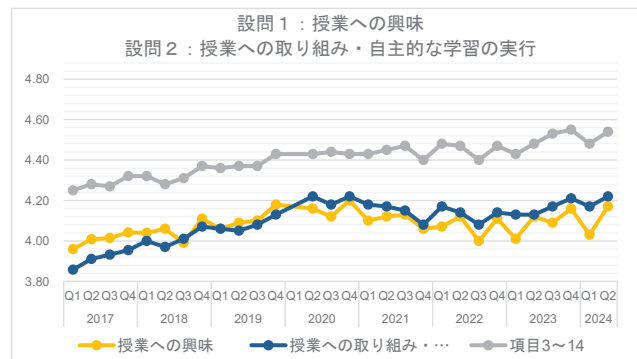
表 3 項目ごとの評定平均値（2021 年度 第 1 クォーター～ 2024 年度 第 2 クォーター）

	設問項目	学期	2021	2021	2021	2021	2022	2022	2022	2022	2023	2023	2023	2023	2024	2024
			Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
1	授業への興味		4.10	4.12	4.13	4.06	4.07	4.12	4.00	4.11	4.01	4.12	4.09	4.16	4.03	4.17
2	授業への取り組み・自主的な学習の実行		4.18	4.17	4.15	4.08	4.17	4.14	4.08	4.14	4.13	4.13	4.17	4.21	4.17	4.22
3	授業時間の厳守		4.74	4.70	4.75	4.64	4.72	4.68	4.62	4.65	4.74	4.69	4.75	4.74	4.74	4.74
4	構成や速度が適切		4.48	4.49	4.51	4.46	4.52	4.53	4.44	4.54	4.52	4.54	4.58	4.60	4.53	4.59
5	到達目標の理解		4.16	4.18	4.18	4.16	4.24	4.23	4.14	4.25	4.18	4.26	4.28	4.35	4.25	4.34
6	到達目標の達成		4.07	4.11	4.12	4.08	4.16	4.15	4.07	4.15	4.09	4.18	4.21	4.26	4.15	4.24
7	教員の姿勢		4.58	4.60	4.63	4.53	4.63	4.62	4.57	4.61	4.59	4.64	4.67	4.68	4.64	4.66
8	教員の声		4.60	4.59	4.63	4.60	4.64	4.61	4.56	4.60	4.63	4.66	4.73	4.73	4.67	4.70
9	理解度への配慮・板書、配付資料		4.46	4.47	4.50	4.46	4.53	4.51	4.45	4.52	4.49	4.54	4.60	4.61	4.53	4.59
10	妨げ行為への対処		4.72	4.70	4.74	4.66	4.69	4.70	4.62	4.66	4.53	4.55	4.62	4.64	4.57	4.59
11	意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導		4.26	4.31	4.35	4.25	4.34	4.34	4.26	4.35	4.28	4.37	4.41	4.44	4.32	4.44
12	質問や相談の機会		4.42	4.46	4.48	4.36	4.46	4.49	4.41	4.45	4.41	4.49	4.55	4.55	4.50	4.54
13	知識・理解の深まり		4.38	4.40	4.39	4.36	4.44	4.43	4.36	4.44	4.40	4.47	4.49	4.52	4.45	4.52
14	全体としての満足度		4.30	4.35	4.36	4.30	4.39	4.38	4.29	4.39	4.34	4.41	4.45	4.50	4.40	4.49

個々の項目について、昨年度の同時期とそれぞれ比較してみて、どれも上向きである。以下、各項目について、2017 年度からのデータも交え、コメントを付すことにしたい（私の個人的な見解にとどまることを申し添えておく）。

設問項目	1	2	3～14
2017	Q1 3.96	3.86	4.25
	Q2 4.01	3.91	4.28
	Q3 4.01	3.93	4.27
	Q4 4.04	3.95	4.32
2018	Q1 4.04	4.00	4.32
	Q2 4.06	3.97	4.28
	Q3 3.99	4.01	4.31
	Q4 4.11	4.07	4.37
2019	Q1 4.06	4.06	4.36
	Q2 4.09	4.05	4.37
	Q3 4.10	4.08	4.37
	Q4 4.18	4.13	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.16	4.22	4.43
	Q3 4.12	4.18	4.44
	Q4 4.20	4.22	4.43
2021	Q1 4.10	4.18	4.43
	Q2 4.12	4.17	4.45
	Q3 4.13	4.15	4.47
	Q4 4.06	4.08	4.40
2022	Q1 4.07	4.17	4.48
	Q2 4.12	4.14	4.47
	Q3 4.00	4.08	4.40
	Q4 4.11	4.14	4.47
2023	Q1 4.01	4.13	4.43
	Q2 4.12	4.13	4.48
	Q3 4.09	4.17	4.53
	Q4 4.16	4.21	4.55
2024	Q1 4.03	4.17	4.48
	Q2 4.17	4.22	4.54

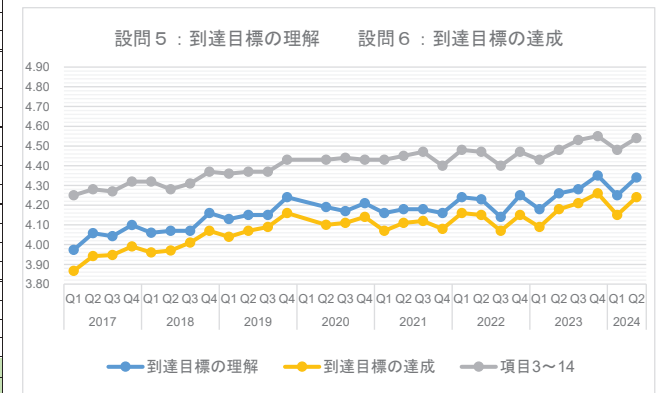
項目「1」と「2」は、受講者の授業の参加に関するものである。この2つの項目を対象にはしていないが、項目3～14までの評定平均値も参考にグラフに載せておいた。「1」は授業への興味であり、昨年度比では良いものの、他の項目に比べて浮き沈みが激しい。「2」の授業への主体的参加や自主的な学習に関する設問は、「4.20」前後となっている。



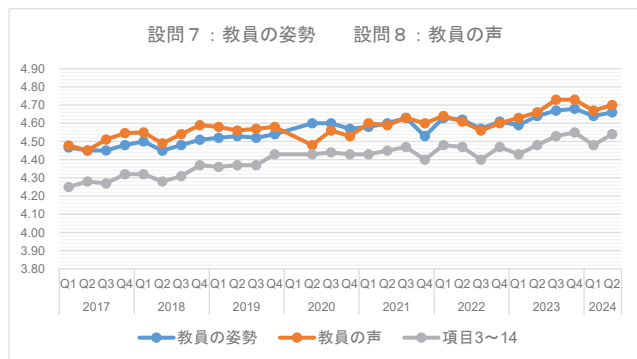
授業の実施の形式に関する「3」「4」について、第1クォーターにおいては、前年度の同時期と数値はほぼ同じであるが、第2クォーターでは0.05ポイントの上昇が見られる。この2つは、「3～14の評定平均値」と比べて長らく高い数値にあると言え、特に設問「3」は「4.70」前後をコンスタントに示している。

設問項目	5	6	3～14
2017	Q1 3.97	3.87	4.25
	Q2 4.06	3.94	4.28
	Q3 4.04	3.95	4.27
	Q4 4.10	3.99	4.32
2018	Q1 4.06	3.96	4.32
	Q2 4.07	3.97	4.28
	Q3 4.07	4.01	4.31
	Q4 4.16	4.07	4.37
2019	Q1 4.13	4.04	4.36
	Q2 4.15	4.07	4.37
	Q3 4.15	4.09	4.37
	Q4 4.24	4.16	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.19	4.10	4.43
	Q3 4.17	4.11	4.44
	Q4 4.21	4.14	4.43
2021	Q1 4.16	4.07	4.43
	Q2 4.18	4.11	4.45
	Q3 4.18	4.12	4.47
	Q4 4.16	4.08	4.40
2022	Q1 4.24	4.16	4.48
	Q2 4.23	4.15	4.47
	Q3 4.14	4.07	4.40
	Q4 4.25	4.15	4.47
2023	Q1 4.18	4.09	4.43
	Q2 4.26	4.18	4.48
	Q3 4.28	4.21	4.53
	Q4 4.35	4.26	4.55
2024	Q1 4.25	4.15	4.48
	Q2 4.34	4.24	4.54

到達目標に関する「5」「6」は、「3～14の評定平均値」よりも低いが、昨年度同時期に比べて良い結果となっている。「理解」の「5」よりも、「達成」の「6」のほうが低いのは、長らく続いてしまっている。



設問項目	3	4	3～14
2017	Q1 4.61	4.33	4.25
	Q2 4.60	4.38	4.28
	Q3 4.59	4.34	4.27
	Q4 4.63	4.38	4.32
2018	Q1 4.68	4.38	4.32
	Q2 4.57	4.34	4.28
	Q3 4.61	4.36	4.31
	Q4 4.61	4.42	4.37
2019	Q1 4.65	4.43	4.36
	Q2 4.65	4.43	4.37
	Q3 4.64	4.42	4.37
	Q4 4.63	4.49	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.73	4.48	4.43
	Q3 4.72	4.49	4.44
	Q4 4.67	4.47	4.43
2021	Q1 4.74	4.48	4.43
	Q2 4.70	4.49	4.45
	Q3 4.75	4.51	4.47
	Q4 4.64	4.46	4.40
2022	Q1 4.72	4.52	4.48
	Q2 4.68	4.53	4.47
	Q3 4.62	4.44	4.40
	Q4 4.65	4.54	4.47
2023	Q1 4.74	4.52	4.43
	Q2 4.69	4.54	4.48
	Q3 4.75	4.58	4.53
	Q4 4.74	4.60	4.55
2024	Q1 4.74	4.53	4.48
	Q2 4.74	4.59	4.54

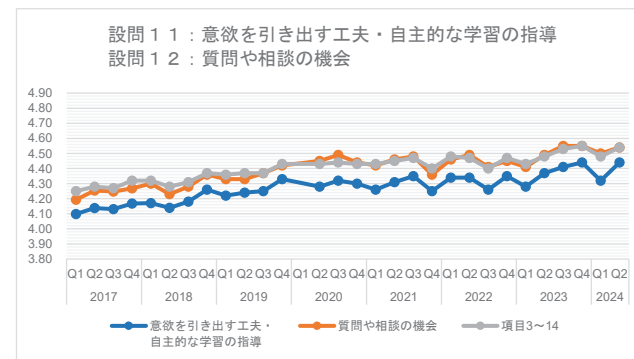
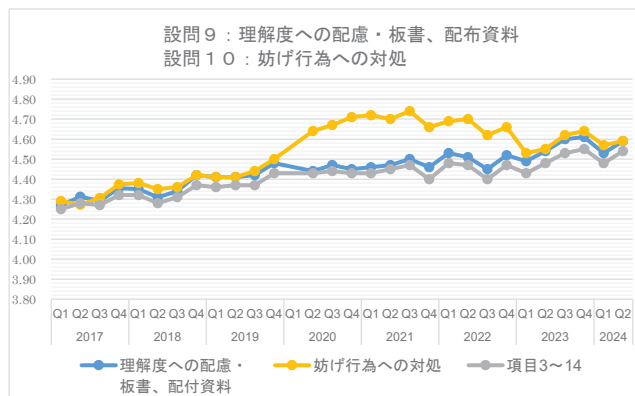


教員の授業への人的な態度にかかわる「7」「8」も、堅調に高い水準にある。この2つは、いずれも、「3～14の評定平均値」に比べて、コンスタントに高い値を保っている。

設問項目	7	8	3～14
2017	Q1 4.47	4.48	4.25
	Q2 4.45	4.45	4.28
	Q3 4.45	4.51	4.27
	Q4 4.48	4.55	4.32
2018	Q1 4.50	4.55	4.32
	Q2 4.45	4.49	4.28
	Q3 4.48	4.54	4.31
	Q4 4.51	4.59	4.37
2019	Q1 4.52	4.58	4.36
	Q2 4.53	4.56	4.37
	Q3 4.52	4.57	4.37
	Q4 4.54	4.58	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.60	4.48	4.43
	Q3 4.60	4.56	4.44
	Q4 4.57	4.53	4.43
2021	Q1 4.58	4.60	4.43
	Q2 4.60	4.59	4.45
	Q3 4.63	4.63	4.47
	Q4 4.53	4.60	4.40
2022	Q1 4.63	4.64	4.48
	Q2 4.62	4.61	4.47
	Q3 4.57	4.56	4.40
	Q4 4.61	4.60	4.47
2023	Q1 4.59	4.63	4.43
	Q2 4.64	4.66	4.48
	Q3 4.67	4.73	4.53
	Q4 4.68	4.73	4.55
2024	Q1 4.64	4.67	4.48
	Q2 4.66	4.70	4.54

学生の理解度への配慮に関する「9」では、教科書・板書・配布資料・課題・実技に注目した形での授業の実施に関するもので、これも「4.50」を越える高い数値になっている。コロナ禍の経験を経て、資料を、「資料D Lサーバー」などを通じて配布する授業も多くなったと思われる。「10」の妨げ行為への対処も、コロナ禍に見られた数値には届かないが、やはり「4.50」を上回る数値をキープしており、対面授業の本格的再開以降も、教員からの適切な対処が行なわれていることが確認される。

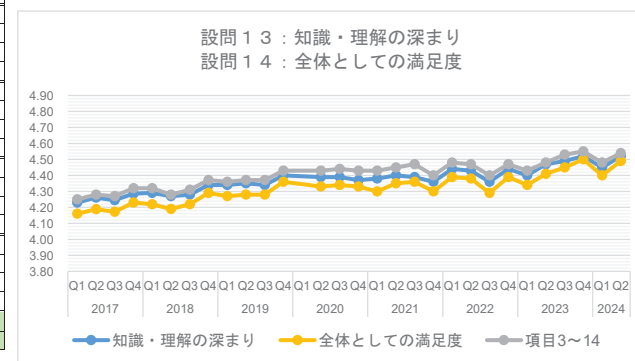
設問項目	9	10	3～14
2017	Q1 4.27	4.29	4.25
	Q2 4.31	4.27	4.28
	Q3 4.29	4.31	4.27
	Q4 4.35	4.37	4.32
2018	Q1 4.35	4.38	4.32
	Q2 4.31	4.35	4.28
	Q3 4.34	4.36	4.31
	Q4 4.42	4.42	4.37
2019	Q1 4.41	4.41	4.36
	Q2 4.41	4.41	4.37
	Q3 4.42	4.44	4.37
	Q4 4.48	4.50	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.44	4.64	4.43
	Q3 4.47	4.67	4.44
	Q4 4.45	4.71	4.43
2021	Q1 4.46	4.72	4.43
	Q2 4.47	4.70	4.45
	Q3 4.50	4.74	4.47
	Q4 4.46	4.66	4.40
2022	Q1 4.53	4.69	4.48
	Q2 4.51	4.70	4.47
	Q3 4.45	4.62	4.40
	Q4 4.52	4.66	4.47
2023	Q1 4.49	4.53	4.43
	Q2 4.54	4.55	4.48
	Q3 4.60	4.62	4.53
	Q4 4.61	4.64	4.55
2024	Q1 4.53	4.57	4.48
	Q2 4.59	4.59	4.54



「11」の意欲への工夫や自主学習の指導、「12」の質問や相談の機会も、昨年度の同時期と比較して、数値は上がっている。「11」の意欲を引き出す工夫については、「3～14の評定平均値」には及んでいないが、数年前から見ると、徐々に上昇しており、項目の「2」とも関連するものと言えよう。

設問項目	13	14	3～14
2017	Q1 4.23	4.16	4.25
	Q2 4.26	4.19	4.28
	Q3 4.25	4.17	4.27
	Q4 4.29	4.23	4.32
2018	Q1 4.29	4.22	4.32
	Q2 4.27	4.19	4.28
	Q3 4.28	4.22	4.31
	Q4 4.34	4.29	4.37
2019	Q1 4.34	4.27	4.36
	Q2 4.35	4.28	4.37
	Q3 4.34	4.28	4.37
	Q4 4.40	4.36	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.39	4.33	4.43
	Q3 4.39	4.34	4.44
	Q4 4.37	4.33	4.43
2021	Q1 4.38	4.30	4.43
	Q2 4.40	4.35	4.45
	Q3 4.39	4.36	4.47
	Q4 4.36	4.30	4.40
2022	Q1 4.44	4.39	4.48
	Q2 4.43	4.38	4.47
	Q3 4.36	4.29	4.40
	Q4 4.44	4.39	4.47
2023	Q1 4.40	4.34	4.43
	Q2 4.47	4.41	4.48
	Q3 4.49	4.45	4.53
	Q4 4.52	4.50	4.55
2024	Q1 4.45	4.40	4.48
	Q2 4.52	4.49	4.54

授業の全体的な評価に関する「13」と「14」についてみると、知識・理解の深まりについての「13」も堅調に向上を見せている。肝心の「全体としての満足度」の「14」も、「3～14までの評定平均値」には届かないが、上がってきている。



総じて見れば、授業の形式に関する「3」・「4」、授業の運営に関する「7」～「10」は、だいぶ手堅く高評価が続いており、「3～14の評定平均値」を上へと引っ張っているものと言えよう。到達目標に関する「5」・「6」と、意欲を引き出す工夫の「11」について、もう少し伸びが欲しいということとなる。予復習などを通じた学習によって着実に知識や力がついていることを実感しながら（「11」、「13」も）、授業の最終回や（定期）試験に臨む段階で到達して欲しいゴールをシラバスに明示しそこに向けて各回の授業を実施すること（特に「6」）によって、これらの数値の向上も上がり、ひいては授業全体の満足度（「14」）の向上にもつながる、というような良い連鎖が期待されると思われる。

3. 教員ごとの結果の見方

「7 自己点検・評価報告書」に記載されている頁番号（丸括弧がないもの）の箇所では、教員ごとの結果を示している。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示する。それぞれ、次の内容となっている。

- ① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など**
- ② **2種類のレーダーチャート** 右下の図は回答者全員の集計結果であり、左上の図は学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目2の評定値が3.0以上の学生だけに絞って集計した結果である。
- ③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を基に、結果の自己点検評価や、次学期・クォーターに向けた改善策などを書いた報告書である。

4. 授業評価結果の活用

この授業評価は、授業担当者が自らの授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を学生から収集するために実施されている。各授業担当者は、評価項目の数値や自由記述欄に書かれた内容を参考に、自分の授業の点検・評価を行い、改善策を検討することとなっている。授業評価の実施、点検および評価、改善策の検討と実施を1つのサイクルとして、授業の質等を向上させることにつながれば幸いである。

今回の巻頭言では、各項目について、2017年度からのデータを引き合いに出し、その推移についても表とグラフで示してみた。また、各グラフでは、項目3～14の平均値についてもそれぞれ乗せておいた。参考の一助になれば幸いである。

昨期の巻頭言に引き続いて、今期においても、昨年度比でどの項目も程度の差はあれ上昇しており、各教員の授業への様々な改善の努力や取り組みが数字で表われていることを確認できる。そうした努力や取り組みにただただ感謝の念を強くする次第である。

他面で、いまの各項目の中でも、特に高い評価で落ち着いているものについては、見直しをはかり、別の指標と入れ替えるなどして、別の観点から授業評価を整え直すことも考えられるであろう。さらには、現状のデータの収集や分析のあり方だけでよいのか、という疑問も、当然のことながら持たれるところである。大・中・小の授業のサイズごと、各学部学科・開講主体ごとで、14の項目の平均を出して見るというような、データのさら

なる整理も考えられる方策である。現に、他大学における授業評価アンケートの実際を見ても、とりわけ教学IRの組織がしっかりしているところでは、本学で行なわれているよりも多くのデータを収集し、各構成員ひいては学部学科さらには大学の本部のそれぞれのレベルにとって有意義なデータの分析が行なわれている。本学では、現状、当委員会の権限や組織、またマンパワーなどの点から、そうしたさらなるデータの収集や分析についてより進んだ次元に達するためには、制度的な限界があるが、今後、教学マネジメントの体制づくりが進展するなかで、授業評価関連にあたる制度・組織のほうも強力になり、さらなる情報分析が進むことが期待される。他方で、今年度から試行的に取り組まれてきているアセスメント・テストや、到達度調査や学修行動調査など各種調査との関連では、データの連係はさることながら、各種調査やアンケートの機会や量の増加にともなう学生・教員・事務への負担の増加も懸念されるところである。当授業評価アンケートは、後発のこれらの各種調査に比べて歴史的やデータの積み重ねもあり、その重要性も劣るものではないとはいえ、一定程度の「合理化」も必要とならざるを得ないかもしれない。データの収集や分析の充実化と、アンケート実施の「合理化」ということが、当授業評価アンケートの制度としての意味を再検討するにあたり、検討されるべき事項である。

回答率の低下も、長らく課題とされてきていた。前述したように、今回、第2クォーターにおいては、大教室の授業でささやかな施策を試み、低下の持ち直しに効果がありうることを感じている。もともと、これも上述したが、アンケートの実施にத்தての大きな前提としての、学生の出席（率の向上）ということも、当委員会が主に扱う活動の領域の範疇から越え出るものではあるが、小さからぬ課題である。例年、下半期の第3クォーターや第4クォーターは、回答率が上半期に比べて落ち込むが、この出席をめぐる点についても、調査の後景に見据えてみることにしたい。

以上

「学生による授業評価」のまとめ 2024年度第3・第4クォーター刊行にあたって

2025年6月

南山大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会
前委員長 服部 寛

南山大学では、1997年度より、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育の質を向上させることを目的として、「学生による授業評価」を全校で実施している。設問項目の見直しなどが以降はかられ、2017年度のクォーター制の導入・名古屋キャンパスへの統合・授業評価のウェブ入力方式への変更といった大きな転換を経て、2020年度には科目選出方法が見直され、授業評価の現在の実施形態の基礎が整えられた。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響を受けたオンライン授業・ハイブリッド授業の導入に伴い、授業評価も設問内容の変更を迫られたが、2022年度には対面授業にほぼ戻ることとなり、2023年度・2024年度と、ほとんど対面で授業が実施されている。

「学生による授業評価」に関する基本的な情報は、「南山大学 教学企画課」の以下のホームページに掲載されている。

- ・授業評価について <https://office.nanzan-u.ac.jp/kyogaku/jugyohyoka/>
このホームページに、以下の2つのホームページへのリンクが貼られている。
- ・「学生による授業評価」の「概要」 <https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/hyoka.html>
(「まとめ」(巻頭言)・「設問項目」「各種集計」)
- ・「学生による授業評価」の「まとめ」(自己点検・評価報告書)
<https://office.nanzan-u.ac.jp/kyogaku/jugyohyoka/matome/>
(各科目のデータと各担当者による報告書はここから確認できる。)

1. 授業評価の実施方法

① 対象科目

各学期について1教員につき1科目が選択され第3・第4クォーター合わせて合計441科目（うち報告書のみの科目は10科目）が授業評価の対象となった。

② 質問項目

質問項目は以下のとおりである。設問1と2は学生の授業参加を問う項目、設問3から14は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。このほかに、3つの自由記述の質問項目を設けており、理工学部の授業については4つの追加設問項目がある。

〈「学生による授業評価」質問項目〉

- 設問 1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。
- 設問 2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。
- 設問 3：授業の開始と終了の時間は守られていましたか。
- 設問 4：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。
- 設問 5：この授業の到達目標を理解することができましたか。
- 設問 6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。
- 設問 7：担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。
- 設問 8：授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。
- 設問 9：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。
- 設問 10：私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていたか。
- 設問 11：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。
- 設問 12：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。
- 設問 13：この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。
- 設問 14：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。回答は匿名化して処理される。学生は、教員の指示により授業時間内外に各自のスマートフォン等を使ってPORTAにログインして回答する。授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅PC等を利用して回答することが可能である。

④ 実施・集計日程

以下の日程で実施集計を行った。別途、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の分析・検討を行っている。

	第3クォーター	第4クォーター
授業評価の実施	2024年10月25日～ 2024年11月11日	2025年1月6日～ 2025年1月25日
集計作業	2024年11月12日～ 2024年11月14日	2025年1月26日～ 2025年1月29日
教員への集計結果の通知	2024年11月15日	2025年1月30日
教員からの自己点検・評価報告書提出	2024年11月15日～ 2025年2月17日	2025年1月30日～ 2025年2月17日
『学生による授業評価』のまとめの発行	2025年6月	2025年6月

2. 集計結果の概要

① 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者数の割合である。表1は、2021年度から今期までの数値をまとめたものである(表1)。

表1 回答率 (2021年度第1クォーター～2024年度第4クォーター) (数値:%)

年度 人数	2021 Q1	2021 Q2	2021 Q3	2021 Q4	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4	2023 Q1	2023 Q2	2023 Q3	2023 Q4	2024 Q1	2024 Q2	2024 Q3	2024 Q4
全体	48.05	50.30	44.50	47.90	49.01	46.89	41.97	45.10	58.16	46.24	42.92	40.67	49.85	48.27	44.10	45.66
30名以下	62.11	70.02	51.66	58.78	69.35	65.55	57.09	59.02	73.17	59.06	57.06	58.59	70.80	67.60	60.79	60.86
31～60名	53.04	56.27	46.25	52.79	57.93	55.00	49.53	51.53	61.39	61.45	50.62	44.55	59.19	58.02	51.03	55.01
61～120名	42.26	48.70	41.78	48.63	48.36	46.71	35.40	42.60	58.23	47.50	44.76	40.73	49.29	52.06	40.53	39.67
121～240名	46.30	44.67	42.21	43.52	40.98	40.53	42.41	41.74	53.68	44.79	39.37	34.28	47.22	42.28	40.98	43.13
241名以上	45.34	48.84	46.39	42.07	47.74	42.55	34.71	40.27	55.36	41.40	38.41	34.44	43.34	44.39	39.46	42.12

今期の2024年度の第3クォーター・第4クォーターについて、各数値を確認していくと、まず、「全体」は、第3クォーターが「44.10%」、第4クォーターが「45.66%」であり、前年度の同時期と比べるといずれも上昇した。教室の規模に注目して見ると、第3クォーターも第4クォーターも、「61～120名」では昨年度同時期より低下しているが、それ以外では数値の上昇を確認できる。ここ数年、第3クォーターと第4クォーターは、総じて、年々数値が右肩下りの傾向が続いていたが、今期はこれと異なる結果となった。とりわけ、第4クォーターでは、全体の回答率が約5%も上昇し、中でも「121～240名」「241名以上」の教室サイズの授業で8%～9%ほど上がった。大規模教室の授業における回答率の低下は、近年の課題であったが、今期は持ち直したと言える。FD委員会では、第4クォーターの授業評価に際して、「241名以上」となる授業の科目担当者に、「学生による授業評価」へのFD委員から「協力のお願いのお声がけ」を行っており(表1内の黄色マーク箇所)、授業評価への回答時間の確保(少なくとも1回)と回答方法(アンケート実施マニュアル3頁目フローチャート内に記載)の指示の読み上げを依頼した。かかる試みは、2024年度の第2クォーターに続いて2回目の実施である。今回も、関係する諸先生方と受講者の皆さんの真摯な対応とご協力に感謝申し上げる。

今期の興味深い結果として、「協力のお願いのお声がけ」を行った「241名以上」の教室以外でも、「121～240名」の規模の授業でも数値が改善している。特に第4クォーターのほうでは、9%を超える上昇であった。この規模の授業では「お声がけ」を行っていないにもかかわらず、「お声がけ」を行った規模の授業と同程度の改善が見られたことについては、様々なことが考えられ、「お声がけ」の意義を消極的に見ることも可能ではあるが、卑見では、「240名以上」の声がけが、他の規模の授業にも大小の影響を及ぼしたのではないかと解したい。このように大規模の授業での回答率が向上しているのに対して、前述したが、「61～120名」の規模の授業では落ち込みが見られるのが残念である。

② 報告書提出について

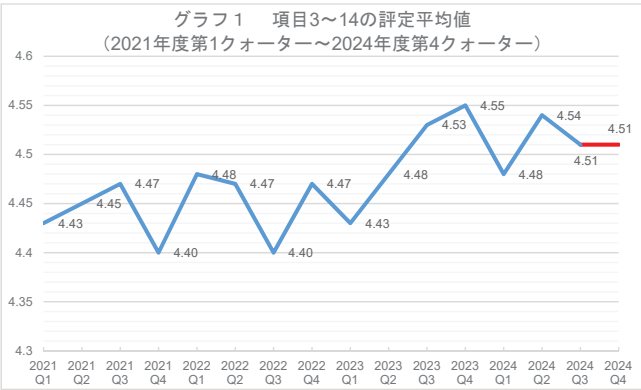
授業評価を行った後、教員より自己点検・評価報告書を提出して頂いている。2024年度第3クォーター・第4クォーターでは、第4クォーターに実施の授業で1件の非提出となつてしまった。全件の期限内の提出が実現されるよう、ご理解とご協力をお願いしたい。

③ 項目3～14の評定平均値について・項目ごとの評定平均値について

表2は、「項目3～14の評定平均値」を表わしたものである。2021年度～2024年度第4クォーターまでの数値を表で表したものが表2で、グラフ化したものがグラフ1である。

表2 項目3～14の評定平均値 (2021年度第1クォーター～2024年度第4クォーター)

年度 学期	2021 Q1	2021 Q2	2021 Q3	2021 Q4	2022 Q1	2022 Q2	2022 Q3	2022 Q4	2023 Q1	2023 Q2	2023 Q3	2023 Q4	2024 Q1	2024 Q2	2024 Q3	2024 Q4
全体	4.43	4.45	4.47	4.40	4.48	4.47	4.40	4.47	4.43	4.48	4.53	4.48	4.55	4.48	4.54	4.51



2024年度の第3クォーター・第4クォーターの当該数値は、いずれも「4.51」で、昨年度の同時期に比べて低下した。

表 3 は、各設問項目の数値の推移を示している。

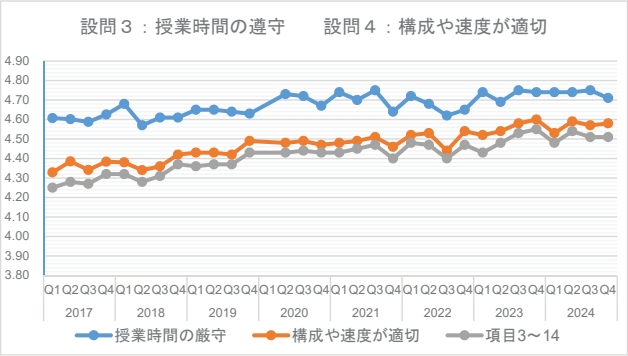
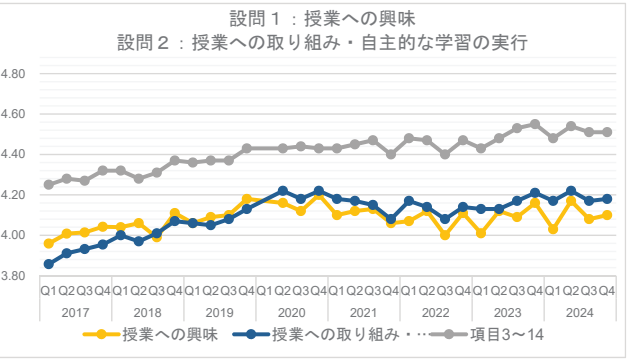
表 3 項目ごとの評定平均値（2021 年度 第 1 クォーター～2024 年度 第 4 クォーター）

	設問項目	2021 年度				2022 年度				2023 年度				2024 年度			
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
1	授業への興味	4.10	4.12	4.13	4.06	4.07	4.12	4.00	4.11	4.01	4.12	4.09	4.16	4.03	4.17	4.08	4.10
2	授業への取り組み・自主的な学習の実行	4.18	4.17	4.15	4.08	4.17	4.14	4.08	4.14	4.13	4.13	4.17	4.21	4.17	4.22	4.17	4.18
3	授業時間の厳守	4.74	4.70	4.75	4.64	4.72	4.68	4.62	4.65	4.74	4.69	4.75	4.74	4.74	4.74	4.75	4.71
4	構成や速度が適切	4.48	4.49	4.51	4.46	4.52	4.53	4.44	4.54	4.52	4.54	4.58	4.60	4.53	4.59	4.57	4.58
5	到達目標の理解	4.16	4.18	4.18	4.16	4.24	4.23	4.14	4.25	4.18	4.26	4.28	4.35	4.25	4.34	4.30	4.31
6	到達目標の達成	4.07	4.11	4.12	4.08	4.16	4.15	4.07	4.15	4.09	4.18	4.21	4.26	4.15	4.24	4.22	4.22
7	教員の姿勢	4.58	4.60	4.63	4.53	4.63	4.62	4.57	4.61	4.59	4.64	4.67	4.68	4.64	4.66	4.64	4.65
8	教員の声	4.60	4.59	4.63	4.60	4.64	4.61	4.56	4.60	4.63	4.66	4.73	4.73	4.67	4.70	4.70	4.69
9	理解度への配慮・板書、配付資料	4.46	4.47	4.50	4.46	4.53	4.51	4.45	4.52	4.49	4.54	4.60	4.61	4.53	4.59	4.56	4.58
10	妨げ行為への対処	4.72	4.70	4.74	4.66	4.69	4.70	4.62	4.66	4.53	4.55	4.62	4.64	4.57	4.59	4.59	4.59
11	意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導	4.26	4.31	4.35	4.25	4.34	4.34	4.26	4.35	4.28	4.37	4.41	4.44	4.32	4.44	4.39	4.49
12	質問や相談の機会	4.42	4.46	4.48	4.36	4.46	4.49	4.41	4.45	4.41	4.49	4.55	4.55	4.50	4.54	4.50	4.48
13	知識・理解の深まり	4.38	4.40	4.39	4.36	4.44	4.43	4.36	4.44	4.40	4.47	4.49	4.52	4.45	4.52	4.49	4.48
14	全体としての満足度	4.30	4.35	4.36	4.30	4.39	4.38	4.29	4.39	4.34	4.41	4.45	4.50	4.40	4.49	4.45	4.45

昨年度の同時期と比較して、多くの項目で評価の落ち込みを確認されうる。以下、各項目について、コメントする（いずれも私の個人的な見解にとどまることにご留意願いたい）。

設問項目	1	2	3～14
2017	Q1 3.96	3.86	4.25
	Q2 4.01	3.91	4.28
	Q3 4.01	3.93	4.27
	Q4 4.04	3.95	4.32
2018	Q1 4.04	4.00	4.32
	Q2 4.06	3.97	4.28
	Q3 3.99	4.01	4.31
	Q4 4.11	4.07	4.37
2019	Q1 4.06	4.06	4.36
	Q2 4.09	4.05	4.37
	Q3 4.10	4.08	4.37
	Q4 4.18	4.13	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.16	4.22	4.43
	Q3 4.12	4.18	4.44
	Q4 4.20	4.22	4.43
2021	Q1 4.10	4.18	4.43
	Q2 4.12	4.17	4.45
	Q3 4.13	4.15	4.47
	Q4 4.06	4.08	4.40
2022	Q1 4.07	4.17	4.48
	Q2 4.12	4.14	4.47
	Q3 4.00	4.08	4.40
	Q4 4.11	4.14	4.47
2023	Q1 4.01	4.13	4.43
	Q2 4.12	4.13	4.48
	Q3 4.09	4.17	4.53
	Q4 4.16	4.21	4.55
2024	Q1 4.03	4.17	4.48
	Q2 4.17	4.22	4.54
	Q3 4.08	4.17	4.51
	Q4 4.10	4.18	4.51

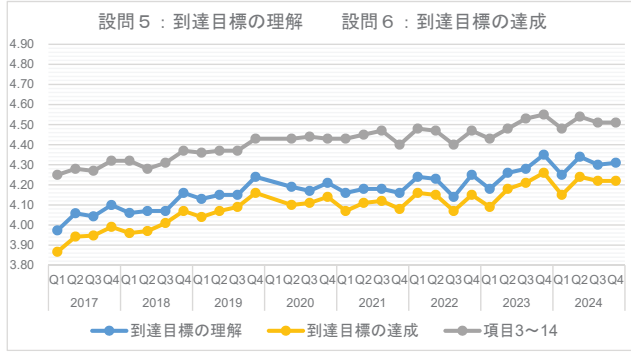
項目「1」と「2」は、受講者の授業の参加に関するものである。この2つの項目を対象にはしていないが、項目3～14までの評定平均値も参考にグラフに載せておいた。「1」は授業への興味であり、昨年度から落ち込んでいたが、「4.10」前後をキープしている。「2」の授業への主体的参加や自主的な学習に関する設問は、「4.20」前後で、2023 年度からほぼ横ばいとなっていると言える。



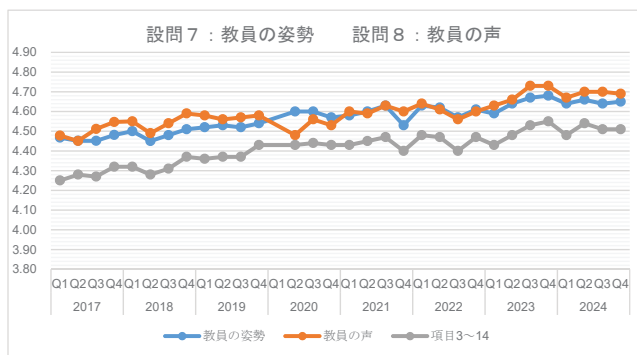
授業の実施の形式に関する「3」「4」について、第4クォーターで低下したが、「4.70」という高水準を保っている。設問「4」も微減したが、「4.55」を上回っており、これも「3～14の評定平均値」を越えている。

設問項目	5	6	3～14
2017	Q1 3.97	3.87	4.25
	Q2 4.06	3.94	4.28
	Q3 4.04	3.95	4.27
	Q4 4.10	3.99	4.32
2018	Q1 4.06	3.96	4.32
	Q2 4.07	3.97	4.28
	Q3 4.07	4.01	4.31
	Q4 4.16	4.07	4.37
2019	Q1 4.13	4.04	4.36
	Q2 4.15	4.07	4.37
	Q3 4.15	4.09	4.37
	Q4 4.24	4.16	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.19	4.10	4.43
	Q3 4.17	4.11	4.44
	Q4 4.21	4.14	4.43
2021	Q1 4.16	4.07	4.43
	Q2 4.18	4.11	4.45
	Q3 4.18	4.12	4.47
	Q4 4.16	4.08	4.40
2022	Q1 4.24	4.16	4.48
	Q2 4.23	4.15	4.47
	Q3 4.14	4.07	4.40
	Q4 4.25	4.15	4.47
2023	Q1 4.18	4.09	4.43
	Q2 4.26	4.18	4.48
	Q3 4.28	4.21	4.53
	Q4 4.35	4.26	4.55
2024	Q1 4.25	4.15	4.48
	Q2 4.34	4.24	4.54
	Q3 4.30	4.22	4.51
	Q4 4.31	4.22	4.51

到達目標に関する「5」「6」は、「3～14の評定平均値」よりも低いが、昨年度同時期に比べて良い結果となっている。「理解」の「5」よりも、「達成」の「6」のほうが低いのは、今期も続いてしまった。



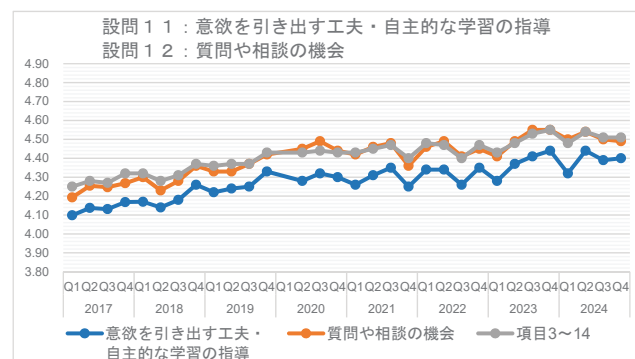
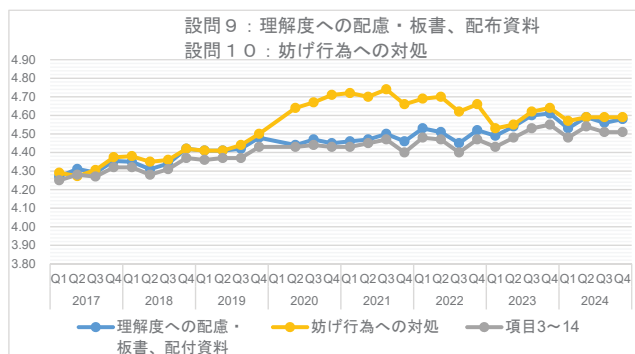
設問項目	3	4	3～14
2017	Q1 4.61	4.33	4.25
	Q2 4.60	4.38	4.28
	Q3 4.59	4.34	4.27
	Q4 4.63	4.38	4.32
2018	Q1 4.68	4.38	4.32
	Q2 4.57	4.34	4.28
	Q3 4.61	4.36	4.31
	Q4 4.61	4.42	4.37
2019	Q1 4.65	4.43	4.36
	Q2 4.65	4.43	4.37
	Q3 4.64	4.42	4.37
	Q4 4.63	4.49	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.73	4.48	4.43
	Q3 4.72	4.49	4.44
	Q4 4.67	4.47	4.43
2021	Q1 4.74	4.48	4.43
	Q2 4.70	4.49	4.45
	Q3 4.75	4.51	4.47
	Q4 4.64	4.46	4.40
2022	Q1 4.72	4.52	4.48
	Q2 4.68	4.53	4.47
	Q3 4.62	4.44	4.40
	Q4 4.65	4.54	4.47
2023	Q1 4.74	4.52	4.43
	Q2 4.69	4.54	4.48
	Q3 4.75	4.58	4.53
	Q4 4.74	4.60	4.55
2024	Q1 4.74	4.53	4.48
	Q2 4.74	4.59	4.54
	Q3 4.75	4.57	4.51
	Q4 4.71	4.58	4.51



教員の授業への人間的態度にかかわる「7」「8」は、若干低下したものの、なおも高い水準にある。この2つは、いずれも、「3～14の評定平均値」に比べて、コンスタントに高い値を保っている。

設問項目	9	10	3～14
2017	Q1 4.27	4.29	4.25
	Q2 4.31	4.27	4.28
	Q3 4.29	4.31	4.27
	Q4 4.35	4.37	4.32
2018	Q1 4.35	4.38	4.32
	Q2 4.31	4.35	4.28
	Q3 4.34	4.36	4.31
	Q4 4.42	4.42	4.37
2019	Q1 4.41	4.41	4.36
	Q2 4.41	4.41	4.37
	Q3 4.42	4.44	4.37
	Q4 4.48	4.50	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.44	4.64	4.43
	Q3 4.47	4.67	4.44
	Q4 4.45	4.71	4.43
2021	Q1 4.46	4.72	4.43
	Q2 4.47	4.70	4.45
	Q3 4.50	4.74	4.47
	Q4 4.46	4.66	4.40
2022	Q1 4.53	4.69	4.48
	Q2 4.51	4.70	4.47
	Q3 4.45	4.62	4.40
	Q4 4.52	4.66	4.47
2023	Q1 4.49	4.53	4.43
	Q2 4.54	4.55	4.48
	Q3 4.60	4.62	4.53
	Q4 4.61	4.64	4.55
2024	Q1 4.53	4.57	4.48
	Q2 4.59	4.59	4.54
	Q3 4.56	4.59	4.51
	Q4 4.58	4.59	4.51

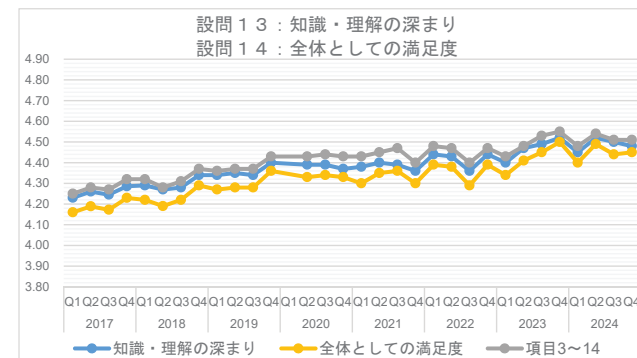
学生の理解度への配慮に関する「9」では、教科書・板書・配布資料・課題・実技に注目した形での授業の実施に関するもので、低下はしているものの、コンスタントに「4.50」を越える高い数値を維持している。「10」の妨げ行為への対処も、やはり「4.50」を上回る数値にあるが、第4クォーターにおける落ち込みが0.05ほどあり、少し気になるところではある。



「11」の意欲への工夫や自主学習の指導、「12」の質問や相談の機会も、昨年度の同時期と比較して、低下してしまった。「12」のほうは0.5ポイントほど落ち込んでいることに注目されたい。

設問項目	13	14	3～14
2017	Q1 4.23	4.16	4.25
	Q2 4.26	4.19	4.28
	Q3 4.25	4.17	4.27
	Q4 4.29	4.23	4.32
2018	Q1 4.29	4.22	4.32
	Q2 4.27	4.19	4.28
	Q3 4.28	4.22	4.31
	Q4 4.34	4.29	4.37
2019	Q1 4.34	4.27	4.36
	Q2 4.35	4.28	4.37
	Q3 4.34	4.28	4.37
	Q4 4.40	4.36	4.43
2020	Q1 実施せず		
	Q2 4.39	4.33	4.43
	Q3 4.39	4.34	4.44
	Q4 4.37	4.33	4.43
2021	Q1 4.38	4.30	4.43
	Q2 4.40	4.35	4.45
	Q3 4.39	4.36	4.47
	Q4 4.36	4.30	4.40
2022	Q1 4.44	4.39	4.48
	Q2 4.43	4.38	4.47
	Q3 4.36	4.29	4.40
	Q4 4.44	4.39	4.47
2023	Q1 4.40	4.34	4.43
	Q2 4.47	4.41	4.48
	Q3 4.49	4.45	4.53
	Q4 4.52	4.50	4.55
2024	Q1 4.45	4.40	4.48
	Q2 4.52	4.49	4.54
	Q3 4.50	4.44	4.51
	Q4 4.48	4.45	4.51

授業の全体的な評価に関する「13」と「14」についてみると、知識・理解の深まりについての「13」も堅調に向上を見せている。肝心の「全体としての満足度」の「14」も、「3～14までの評定平均値」には届かないが、上がってきている。



今期は、前年度同時期に比べて、多くの項目で数値の低下が見られた。もともと、前回の巻頭言（2025年度の第1・第2クォーター分）までは、しばらく右肩上がりの状況が続いており、どこかで頭打ちとなることが予見され得たところであり、2023年度から2024年度までにかけてが、現状の本調査の到達点であった、と見る事が許されるであろう。各項目について、概ねこれまでと同じような傾向にあるが、「0.05」ポイントあたりの落ち込みがあるもの（「10」「11」）については、思い当たるところがないか、いちど各自で振り返ってもらえれば幸いである。到達目標に関する「5」「6」が他項目と比べて見劣りするところも、今期では改善が見られなかった。

3. 教員ごとの結果の見方

「7 自己点検・評価報告書」に記載されている頁番号（丸括弧がないもの）の箇所では、教員ごとの結果を示している。本報告書では、原則として1ページに2件分の結果をまとめて表示する。それぞれ、次の内容となっている。

- ① **科目名、教員名、回答率、休講・補講回数など**
- ② **2種類のレーダーチャート** 右下の図は回答者全員の集計結果であり、左上の図は学生自身の授業参加姿勢を問う設問項目2の評定値が3.0以上の学生だけに絞って集計した結果である。
- ③ **「授業評価結果を踏まえた点検・評価」** 各教員が今回の授業評価結果を基に、結果の自己点検評価や、次学期・クォーターに向けた改善策などを書いた報告書である。

4. 授業評価結果の活用

この授業評価は、授業担当者が自らの授業をよりよいものへと改善していくために役立つ情報を学生から収集するために実施されている。各授業担当者は、評価項目の数値や自由記述欄に書かれた内容を参考に、自分の授業の点検・評価を行い、改善策を検討することとなっている。授業評価の実施、点検および評価、改善策の検討と実施を1つのサイクルとして、授業の質等を向上させることにつながれば幸いである。

今回の巻頭言でも、前回に引き続いて、2017年度からのデータを引きながら、各項目について推移についても表とグラフで示してみた。また、各グラフでは、「項目3～14の平均値」についてもそれぞれ乗せておいた。ご活用頂きたい。

上述したとおり、今期では、各項目で数値の低下が見られてしまったが、それぞれなおも高い水準にあるものと言ってよい。今期の特徴は、これまでの課題であった、回答率の低下について、一定程度の歯止めの現象を確認することができたことである。《回答率》と《各項目の評価》との関係などについては、無論、きちんとした検討を要するところであるが、《授業の改善》によって《回答率》も《各項目の評価》も上向きになることもまた言を俟たない。引き続いて熱意を持った授業をご提供頂けるよう、お願いする次第である。

前回の巻頭言では、「他面で、いまの各項目の中でも、特に高い評価で落ち着いているものについては、見直しをはかり、別の指標と入れ替えるなどして、別の観点から授業評価を

整え直すことも考えられるであろう。」と書いた。このこともあり、このたび、授業評価の見直しがはかられる運びとなり、今期までの項目からいくつかは削除や統合などされ、シラバスに関する設問の追加なども行なわれた。2025年度からは、この巻頭言も、年1回となり（2024年度も年1回の予定のところ、都合により、これまでと同様に前期と半期との2回に分け作成した）、こうした評価の振り返りについても変更する予定である。特に、現状で十分に評価の高い項目（「3」「7」「8」）が削除されることから、現行の「項目3～14の評定平均値」に相当する評定平均値にも影響が見受けられる。しばらくは移行期間としてご理解を頂きながら、継続する項目だけではなく、新たに付け加わるものについても、各授業で意識して頂き、これまでと変わらず、引き続き高い意欲をもって授業を行なって頂きたい。

2025年度より項目の変更を受けて行なわれる授業評価については、それ自体は制度の変更に伴うものではないため、大きい改革というわけではないが、前回の巻頭言の末尾にも挙げたような課題は、まだ手つかずのまま、私の任期を終えてしまうことにつき、力が及ばなかったことをお詫びするほかない。この「学生による授業評価」だけではない大小の制度変革が待ち構えているが、中でも学修成果可視化システムの導入は、教育の質保証にかんする評価のあり方の根幹に関わるもので、これにより、各教員および教員間のみならず、学生と教員の双方向の、いずれの主体（間）の評価に関する意識も大きく変わることが予見されるところである。そうしたなかでも、本学の歴史のなかでもう20年を越える（FD委員会が設置されたのは2005年のこととされる）この「学生による授業評価」の意義も、改めて認識され、変わらず重視されることを願ってやまない。ただ、この「授業評価」のエレメンタルな点について、残される課題を二、三記して擲筆することにした。一つ目は、各教員の自分の過去の授業評価の確認をもっと容易にする必要があるということである。現状、各教員はPORTAでの「自己点検・評価報告書」を作成する際に、当該授業（つまり評価の対象となった自分の当該期の授業）の評価を確認することができるが、過去のデータについては、全体の「自己点検・評価報告書」を見るほかなく、例えば、ここ数年の授業のデータについてはどうかということを振り返るのには大変に面倒な状況となっている。これは、過去の数値と照らし合わせて改善したか（あるいは悪化したか）ということをチェックするのに低かぬハードルとなっている。しかも、授業評価の対象となる授業の選出は、3年を1つのサイクルとしており、該当となった授業の過去のデータとなると、前年度ではなく、前々年度あるいはそれよりも前というようになり、過去のことを振り返るということが等閑にされてしまうことになりはしまいか。二点目は、「授業評価」のデータの扱いおよび処理についての意識の深化ともいうべき点である。これは前回の巻頭言にも記したところにつながるもので、例えば、各項目について、授業サイズごと・各学部学科や開講主体ごとでの分析など、豊富なローデータに対して、分析や集計がまだまだ足りない。これも、前回の巻頭言に書いたように、教学IRのセクションが本学においてまだ弱いことと密接に関連するところであり、人的・制度的資源のいっそうの充実、ぜひとも実現して頂きたい。

以上